だてなりクン

みやぎの明治村 とよま資料館だより

登米市歴史資料館・高倉勝子美術館
発行/㈱とよま振興公社
〒987-0702
宮城県登米市登米町寺池桜小路２-1
Tel：0220-52-5566
Fax：0220-52-2630
http//toyoma.co.jp
発行日：令和6年4月24日

《 伝統芸能伝承館（森舞台）編 》 第13号

// 「なぜ登米に能が伝承されているの？」 //

1 登米伊達家第13代当主　伊達　邦教

今回の「資料館だより」第13号は「登米能」が登米町民に伝承されるきっかけを作った二人の人物を紹介します。

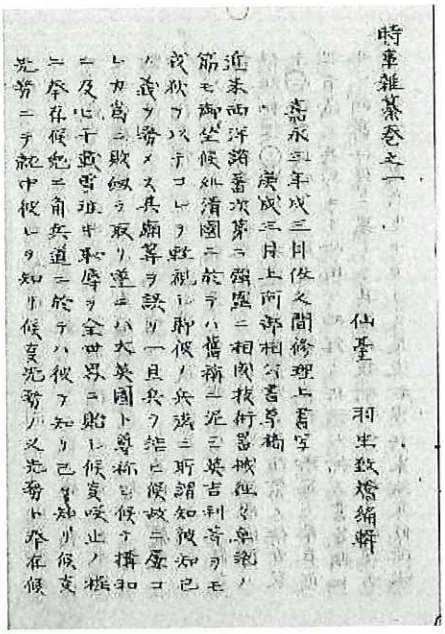
最初に紹介する人物は登米伊達家第13代当主伊達邦教です。邦教は江戸時代最後の登米伊達家の当主で、登米伊達家第12代当主邦寧の嫡男として、天保12年（1841）辛丑閏正月に誕生しました。

邦教は激動の幕末、登米伊達家御次医師の羽生玄栄を京に使わし、京の情勢を探索させるなどの行動を起こしていました。しかし、玄栄の建言等にも関わらず、仙台伊達家の対応は佐幕派と呼ばれる、幕府側として戦う方針となりましたので、結果、戊辰戦争では仙台伊達家は敗者となってしまいました。

図1　宮城県無形民俗文化財指定記念
「登米能」国立能楽堂公演資料
登米能　国立能楽堂公演実行委員会　作成

邦教は明治2年、29歳という若さで逝去しましたが、逝去する前、家臣に8,000石の農地を分け与え、農民として生きていくための「帰農政策」を実行しました。この「帰農政策」を行ったことが、登米町民に「能楽」が伝承されるきっかけとなりました。

8,000石（1石=150kg）を計算してみると、1,200tとなります。明治16年当時の日本全体の平均単収178kgだったようなので、この数値を基にした場合、674町歩の面積となります。これを1,200余戸の家臣に分け与えたと言われています。（1,200戸で割り戻してみると、一戸平均約5反6畝となります。）



時事雑纂巻之一

仙臺　羽生致橋編輯

資料は「時事雑纂」と呼ばれるもので、玄栄が在京中の事などを記録したものです。全部で30巻程作成したようです。

時事雑纂は嘉永3年（1850）から慶応元年（1865）までの記録で、当時の様子が、手に取るように伝わってきます。尚、致橋は玄栄の諱です。

図2：時事雑纂　壹
宮内庁書陵部所蔵

裏面もご覧ください

2 伝承の礎を築いた　大内　五郎右衛門

次に紹介する人物は「大内五郎右衛門」です。五郎右衛門は登米伊達家の家臣で、萬延元年（1860）の登米伊達御家中家譜書上によると、馬上通（ばしょうどおり）という座列（家格）で、仙台伊達家の平士（大番士）と同格だったようです。

五郎右衛門も邦教の「帰農政策」により、農家として生計を立てていたようです。登米在住の故高橋哲郎氏が昭和58年11月初版、平成12年2月復版した「昔語り　とよま能」の中で、五郎右衛門について記載した箇所がありますので、紹介します。

「始め登米の家臣達は、士族の席を抜き平民になるという条件で、奉公人高といわれた開田など配分されて他所のように塗炭の苦しみを味わう事もなく楽に帰農しました。平穏だったのも束の間、身辺の大転換に順応出来ない人達は、折角の田畑を売り食いしたり又は始めた商売の不馴れがもとで失敗して財を失くす人が現れます。・・・体のいい事を言い乍ら盗み泥棒こそしないがユスリ・タカリは茶飯事の様に行われます。・・・五郎右衛門は農業を兼ねて始めた酢造の商売が当りに当りましたが、共に暮らした朋輩達の段棒ゴロと軽蔑される成れの果てを見るに忍びなかったそうです。・・・不遇な人達は世の中の変り様で身に修めた徳を忘れているのだ。衣食の心配もさる事ながらまず殺伐な心をやわらげて、一般の人達の恐れを取り除かなくてはいけない。それには侍時代交遊に役立った能や謡に目を向けさす方法を講ずることが最善かな。と、考えたそうです。・・・・五郎右衛門が謡の道場を開いたのが明治９年の秋でした。」

明治11年「親睦社」という能の会を立ち上げたことも記載されています。

図3:大内五郎右衛門翁扇塚

五郎右衛門は大正４年５月、80歳の天寿を全うし、養雲寺に葬られました。

逝去したことをきっかけとして、記念碑建立の相談が持ち上がり、同年９月に扇塚が養雲寺境内に建立されました。

現在、「登米能」の伝承は「登米謡曲会」が中心となって行っています。時代によって、「登米謡曲会」の活動は紆余曲折があったようですが、昭和62年（1987）「社団法人　仙台青年会議所」が行った「1613年の訪欧使節団を検証する『昭和の使節団』」のローマへの派遣に同行、平成10年（1998）３月に「宮城県指定無形民俗文化財」の指定、平成12年（2000）には「国立能楽堂」で公演を行いました。

現在は、年一回の定期公演（毎年９月第三日曜日の前日）を行う一方で、後継者育成のための活動等も積極的に行っています。

イベント情報

R6.3.16(土) ～ R6.6.30(日)
収蔵資料からたどる「登米伊達氏」
開催中

次号の告知

次号は《高倉勝子美術館編》で、今年7月に発行予定です。
高倉勝子氏は登米町出身の日本画家です。昭和20年8月、広島で原爆に被爆し、その後、塩竈や多賀城等の学校で美術の先生として勤務しました。

編集後記

今回の「資料館だより」は伝統芸能伝承館（森舞台）をテーマとして編集をしました。「資料館だより」第4号で「森舞台」建設の経過について、記述していましたので、今回は登米町民に「能楽」が伝承された背景について、二人の人物を紹介をしました。
この二人がいなかったら、登米町に伝承の「能楽」どうなっていたかなと考えさせられました。　鎌田

“みやぎの明治村”SNS 随時更新中です！
チェックしてみてください。